

Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ポア タールジ! : こんにちは!)

第13回目 10月9日(土)~10月15日(金)までのレポート

10月9日(土) ブラジルへ帰国した青年達との座談会

日本では、9日(土)から、11日(月)体育の日まで3連休ですね。ブラジルでは、12日(火)が祝日、11日(月)は日曜日と祝日に挟まれた休日で、土曜日から4連休となります。

しかし、私は今日、勤務にしました。日本からブラジルに帰国した青年(今は、大学生や社会人)に、日本での生活や学校のこと・ブラジルに帰国してからのことなどを聞き、少しでも、多方面の情報を得るために座談会を企画しました。彼らの仕事や学校の都合上、休日にしかこの会を設定できなかつたので、休日勤務にしました。



今日の出席者は、5人。19～29歳の男性2人、女性3人で、日本滞在が5～16年(両国を複数回行き来している人も)で、両国の生活を半分ずつぐらい経験しています。日本での滞在地も、千葉、静岡、愛知、富山、大阪と各地に点在し、複数の場所で生活した人もいます。今日は、話に夢中になり、座談会後に写真の取り忘れに気づきました。左写真で

す。さらに、男性一人は、用件があり急いで帰宅したので4人しか写っていません。

いろいろな質問や話をした中で、いくつかのポイントを載せます。

① 日本で良かったこと

- ・ いろいろな行事が経験できたこと
- ・ 友達や学校が、自分の面倒をよく見てくれた
- ・ 日本人のまじめさが身に付いたことが今の自分にはメリットになっている

② 大変だったこと、嫌だったこと

- ・ 部活動の大会で、外国人であるため上位の大会(県大会)へ出場制限があった
- ・ かなりひどいじめを受けた(この人は、これが原因で帰国)
- ・ 親が読み書きできないため、自分が通訳したり手紙の翻訳をしたりした
- ・ 日本にいても、親からポルトガル語の指導を厳しく受けた(最終的には良かった)

③ 日本との生活習慣の中で気をつけたいこと

- ・ 頭を軽くさわっての注意はだめ
- ・ 親指と人差し指で○をつくり「OK」やお金を表す表示は、ブラジルでは下品
- ・ 両手を頭の上で付き合わせ、大きく○をつくる体型は、「すっぽかす」の意

④ ブラジルに戻ってから困ったこと

- ・ ブラジルでの挨拶の仕方にとまどう(握手、ハグ、ほほへキス)
- ・ 言葉の壁(ポルトガル語ができない→家庭教師をつける、1学年下の学年に入る)
- ・ 教室内の雑然とした雰囲気
- ・ ブラジル人の約束に対するおおらかさ(いい加減さ)

⑤ 日本教育に望むこと

- ・ 今の日本の若者に、もっとハングリーさがつくような教育を
- ・ 国際的情報をもっと取り入れ、国際感覚を身につける教育を

10月10日(日) 市内観光バス乗車

今日は、マリंगाに来てからずっと乗りたいと思っていた市内観光バスに乗りました。これまで、天候が悪かったり時間が合わなかったりして乗ることができませんでしたが、今日、ようやく乗ることができました。実は、このバスは、マリंगा在住の植田さんやアケミさんは余りお勧めではないみたいで、彼らから「是非乗ると良いよ」という言葉はいただけていません。実際、運行が、土曜日・日曜日・祝日の15時から運行するだけです。そして、乗り場も、大聖堂前と言うだけではっきりしません。そして、「15時という時刻もあてにならないかもしれないよ」と言われているバスでした。



そのため、15時前から、バスがくるのを半信半疑で待ちました。もちろん、バス停も案内もありません。しかし、バスは、ちゃんと15時ちょうどに大聖堂前に来ました。乗り込むのに時間がかかったので、出発は15時を過ぎましたが、良い感じでした。おまけに料金は2リアル(約100円)。安い。バスに乗り込むと、左写真のパンフレットを渡され、バスの運行経路が分かりました。バスで案内される所には、マリंगा中心部の観光スポットがありました。残念なことに、私がすでに歩いて回っているところがほとんどでした。でも、回っていないところも多少あるし、バスで回るのも良いなと思直しました。ただ、地図の裏に観光スポットの説明が少し書いてあるのですが、ポルトガル語で書いてあるので、全く分かりませんでした。クリチバの時には、英語表記もあったので、辞書片手に多少分かったのですが、ポルトガル語では……。です。

このバスは、車窓見学が基本で、観光スポットに来るとバスをしばらく停車させ、その間にアナウンスを流し(もちろんポルトガル語)、しばらくしたら出発するという形式です(写真右は車窓からの礼拝堂)。自分としては、美しい景色や建物を見ることができたのでよいのですが、それがどのような建物や景色なのかという内容が、ほとんど分かりませんでした。それでも、日本のお寺に来た時には、以前来たこともあるので、よく分かりましたし、説明が分からなくても、一度来たことがあるところは、



落ち着いて懐かしくその景色を見ることができました。観光中バスから降りて見学できるところが2カ所あり、そのうちの1カ所が劇場で行っている展覧会でした(左写真)。ここには、マリंगाの1950年代前半の様子を描いた絵が展示され、まだ、60年ぐらい前になのに、今のマリंगाとは大きく異なるマリंगाの様子を見ることができました。(左写真)



10月11日(月) Bosque dos Pioneiros 周回



マリンガ市の中心部には、二つの大きな森（公園）があります（左写真）。二つの大きな森（公園）の間に、大聖堂があります。ここが、マリンガの中心ですから、いかに近くに緑が保存されているか分かります。これらは、マリンガ開拓当時の密林の状態をそのまま残し、一方は森、もう一方は公園にしたそうです（公園の方も現在工事中で中に入ることは

できません）。両方とも、外周がジョギング（ウォーキング）コースになっており、市民の憩いのスペースになっています。

今日は、Bosque dos Pioneiros（開拓の森）（上写真の左の方の森）の外周を歩いた報告をします。この森は、中心部からとても近くにあり、歩いていても直ぐ近くにセントロの町並みも見え、都会の中に残された自然を感じることができます（右上写真）。外周は、3.4kmあり、途中で、ジョギングやウォーキングをしている多くの人に出会います。外周には、右中写真のような表示が200mおきに地面に書かれ、走ったり歩いたりする時の目安になるようになっています。また、外周の途中で、右下写真のような健康器具兼遊具を設置している箇所が2カ所ありました。朝夕には、ここで、体の曲げ伸ばしやねじりなどの運動をしに来る人が結構います。ブラジルの人も健康管理に気をつけています。



公園の外周を歩いている途中で何度も、ヒヤッ・ドキッとすることがありました。まず初めに出てきたのが、体長60～70cmぐらいある巨大なは虫類です（左上写真）。トカゲの巨大版です。名前はもちろん分かりません。景色を見ながら歩いていた私の足下に突然現れました（向こうにすれば、私が突然現れたのです）。写真を撮っていると、地元の子らしい子も珍しそうに見て喜んでいました。次に現れたのは、サル。道路に出ては、えさを探しているようでした（左中写真）。左下写真のサルは、道に落ちた木の実を食べていました。檻のない状態でサルに近づくと、さすがに怖かったです。静岡県三島市では、人に傷を負わせたであろうサルが捕まったようですね。そして、ところどころに野鳥も出てきました（右下写真）。この密林の中はどのようになっているのだろうという不思議と、60～70年前、マリンガ一帯がこのような密林であったことを考えると、当時の開拓者の苦労を多少、身近に感じることができました。



10月12日(火) マリンガ滞在特記 ②



マリンガ滞在記②です。クリチバでは、日曜日になると全ての商店がシャッターを下ろし、店を閉めてしまいましたが、マリンガでは、なんと土曜日の午後から店を閉めてしまう店もかなりあります（左写真）。ですから、商店街が、土曜日の午後から日曜日にかけて閑散としてしまいます。日本では、週末の商店街はかき入れ時なのですが、マ

リンガでは、自分たちの休日を大切にしているようです。お店に関して、もう一つ。右写真を見てください。これは、レストランで見つけた道具？です。扇風機が壁側に向い、店内側に小型の吹き出し口があります。そして、少し下には水タンクがあります。そうです。加湿器です。タンクから水をくみ上げ、小型の吹き出し口から水蒸気が吹き出すようになっています。マリンガでは、晴天が続くと空気がかなり乾燥します。喉がカラカラになるくらいです。そのためこのような加湿器が必要になるようです。私がマリンガに来た頃はかなり乾燥しこの加湿器も動いていましたが、先週半ばまでの10日間は雨か曇りばかりなので、活躍の機会がありませんが、また、フル回転の必要な時もくるものと思います。



次の話題は、同じ店でも、銀行の話題です。左写真にある貼り紙は、銀行がスト中であることを知らせるものです。なんと、銀行がストをしているのです。日本ではストライキということ自体めずらしく、まして、銀行がストをすることなんて聞いたことがありません。しかも、一つの銀行だけがストをして

いるわけではなく、マリンガ中の銀行がストをしているので市民はかなり困るのではないかと思うのですが…？以前は、郵便局がストをした時もあったという話も聞きました。

次の話題は、マリンガの建設ラッシュについてです。右写真は、現在建設中の高層ビルです。正面と左側に2棟の建設中のビルがあることが分かります。2～3km ぐらい市内を散歩してきたことがありましたが、10棟以上のビルが建設中でした。いかに、マリンガが現在建設ラッシュ中であるかが分かります。クリチバでも、かなり建設中の建物がありました。ブラジル全体が、今、経済成長中なのではないかということを感じさせてくれます。



最後の話題は、散歩中に見つけた扇風機の値段表示です。ここには、99リアルとなっています。日本円に換算すると約5000円です。ちなみにこの扇風機は、特別な機能はついておらず、風速を3段階に切り替えるだけです。それでこのお値段です。

10月12日(火) マリンガ滞在特記 ③

マリンガ滞在記③です。今回は、市内を散策していて目に付いた光景の中で、乗り物に関する話題をいくつか載せます。

はじめに、バス停です。マリンガでもクリチバ同様、車社会になり、最たる移動手段は車です。街中を走る車を見ても、平日などは、ほとんど1台の車にドライバーのみという状況で、日本と同じといえます。バスも運行していますが、クリチバほど頻繁には走っておらず、バスの乗車率もそれほど高くは無いです。右上の写真ですが、バス停です。ところが、このバス停には「バス停」という表示はどこにもありません。また、停留所名の表示もなく、バスの時刻表もなく、どこ行きのバスが止まるかの表示もなく、言ってみれば、何の表示もありません。でも、人々はこうやって腰掛けてバスがくるのを待っています。マリンガに住む市民にはバス時刻表が周知されているのかどうかは分かりませんが、私のような旅行者には、とうてい利用できるバス停とは言えません。



けるバス停とは言えません。

左写真は、太陽の陰などの影響で見にくいかもしれませんが、電車の線路が地下に入っていく場所の写真です。陰の境になっているところに線路があります。リオデジヤネイロやサンパウロには地下鉄が走り、人の輸送にも利用されているようですが、クリチバやマリンガなど他の市では、人の輸送ではなく、荷物を運ぶためだけに単線で走っています。ここマリンガでは、以前は線路も地上を走っていたそうですが、交通渋滞解消のため、中心部のみは地下を走らせるようになったということです。

左写真は、太陽の陰などの影響で見にくいかもしれませんが、電車の線路が地下に入っていく場所の写真です。陰の境になっているところに線路があります。リオデジヤネイロやサンパウロには地下鉄が走り、人の輸送にも利用されているようですが、クリチバやマリンガなど他の市では、人の輸送ではなく、荷物を運ぶためだけに単線で走っています。ここマリンガでは、以前は線路も地上を走っていたそうですが、交通渋滞解消のため、中心部のみは地下を走らせるようになったということです。

次は、車の話題です。街中には日本車もちらほら走っていますが、日本車はこちらでは高級車に相当し、数は少ないです。走っている車の中には、かなり古く、がたがた言いながら走っている車もあります。また、タイヤも、タイヤの山が無く日本では危険だなと思うようなタイヤのまま走っている車もあります。車検がないという話も聞いたことがあるので、安全面は大丈夫なのかと思います。ある中古車販売店の店頭で、右上写真の車を販売していました。なんと、1989年産なので、21年前の車です。クラシックカーとして販売するつもりかな？



最後に、馬です（左写真）。場所は、ホテル近くの市の中心部です。中心部にも、このような馬が、商品を運んだり、廃品を回収する時の運搬用として利用されたりしています。近代化された街ですが、まだこのような光景を見ることができます。クリチバでも、同様の光景を見ることができました。

10月13日(水) パラナヴァイへ



今日から、パラナヴァイ市です。豊橋と教育交流を行っている都市です。豊橋との関係を大切に思ってくれてか、初めに訪問した州の教育局でも、私の5日間の日程をいろいろ丁寧に考えて下さいました（左写真）。パラナヴァイ市で私が行いたい希望を伝えたところ、お互いの時間調節をしたとはいえ、私の要望を全て叶えてもらいました。希望の第1番目は、市長への

表敬訪問をしたいということでしたが、このことについては、事前をお願いをしてあったこともあり、早速、今日のうちに訪問を可能にして下さいました。

市長への表敬訪問については、事務所での打ち合わせの後、直ぐにセッティングしてもらい、市長に会うことができました（右写真）。まず、市長にお会いできたことの喜びを伝え、その後、私がブラジルに来た目的を伝えたところ、とても理解を示してくれました。そして、市長からも、豊橋訪問時に大変お世話になったので、豊橋市長にお礼を伝えて欲しいとお願いされました。そして、豊橋とパラナヴァイのつながりをもっと強めたいとも言っていただきました。



市長への訪問の後、昼食まで時間があつたので、市内にある移民 100 周年記念のモニュ



メントの広場に連れて行ってもらいました。その後、移民 80 周年を記念して作られた日本庭園へも連れて行ってもらいました（左写真）。ここは、立派とは言えない公園でしたが、日本風なところも残しながら、とても質素な印象を受けました。自分たちには、落ち着いて見学する時間的余裕がなかったのですが、できれば、このベンチや芝生に寝転がりゆ

ったりとした時間を過ごすのも良いのではないかと思います。

昼食後、マリンガの日本語学校へ行きました。私が訪問した時には、5人の青年が日本語の学習に真剣に取り組んでいました（右下写真）。日本語を勉強して、ぜひ日本へ行きたいという青年達でした。5人の中には、すでに、ブラジル全体の太鼓の競技会で1位になり、日本に行った子たちも3人いました。彼らに、日本はどうだったか聞いたところ「とても素晴らしい」そして、どこが良かったか？と聞いたところ「全部」と答えが返ってきました。日本のことをとても気に入ってくれているブラジルの人たちが居てくれることに、日本人として誇りを持ちたいし、これからも、「全てが素晴らしい」といつてもらえる日本でなければいけないなと思いました。日本語学校に、パラナヴァイの文協の会長も来て下さっていたので、日本語学校でポルトガル語教室を開くことについてもお願いし、理解を得ることができました。





10月14日(木) エニラ モラエス ヒベイロ州立学校訪問

今日から、パラナヴァイ各所の訪問です。今日の訪問は、州立学校です。本校では、5年生～高校生と専門生が学んでいます。生徒数は、約900人、朝(7:30～11:55)・昼(13:30～17:45)・夜(19:00～23:25)の3部制になっています。

初めに、先生方との座談会を行いました。話題の中の一つに、親が学校に関心がないという話がありました。実は今日、生徒達の発表会のイベントが行われている日なのですが、親がほとんど来校していないということに対する不満が出ていました。原因の一つに、本校に登校する子は、6つの地区から集まって登校していることをあげていました。日本でも、家庭と学校が連携し学校経営することが、盛んに叫ばれているという現状を話し、親を取り込むために、行事を土日に実施するか、親への広報活動を様々な方法を使ってこまめに行うことの必要性を話しました。ただ、先生方の様子からは、土日を使って行事を行おうという意欲は余り感じられませんでした。日本の教育への質問も受けました。「留年制について」「日本の子どもの授業態度と、子どもに落ち着いて授業を受けさせる手段について」「日本の公立校と私立校の違い、学校備品の整備について」などなど……。



座談会后、校内を見学しました。今日は「文化と理科の展示会」の日で、子ども達が、



これまでに調べたことや練習したことを展示したり発表したりする日です。中には、踊りについて調べたことの発表をし、タンゴの実演を行っている高校3年生(左上写真)。仕事に使うものの昔と今について調べ、実際に昔の道具と今使用されている道具を展示している7年生(左下写真)。数年前に改訂されたポルトガル語に親しめるようなゲームを作り、楽しんでいる高校2年生、英語の学習で使用した文学作品の1場面を絵で描いている高校1年生など、様々な展示や出し物がありました。また、本校では、化学の専門生が在籍しているので、化学に関

する実験をし、その仕組みなどについて説明してくれました。この専門生ですが、8年生が終わった段階で、ほとんどの生徒は普通の高校に行きます(日本でいう普通科の勉強をします)が、専門生は8年生終了後、専門の勉強をするための本校のような学校に進学し学習を行います。日本と似た形ですが、日本のように数は多くなく、大変限られた数しかありません。このような学校をもっと多数作るとよいのではないかと思うのですが、今ブラジルは学歴社会で、大学を出ないとある程度の給料がもらえないため、あまり人気が無いようです。

今日の学校訪問では、イベントが行われていたということもあり、子ども達の生き生きした活動の姿を見ることができました。



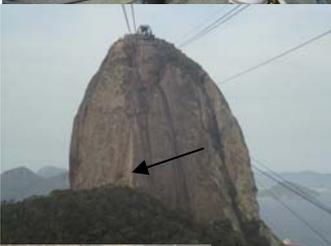
10月15日(金) リオ・デ・ジャネイロへ

「ブラジルへ来たのなら、ぜひ、リオとサンパウロへ」こんな植田さんの言葉に後押しされ、大都会へ向かいました。サンパウロへは、日本から帰国した子ども達への支援を行うカエルプロジェクトの方々と情報交換したいという目的もありました。



リオはすごい。これが第一印象でした。大都会でした。左写真は、カリオカという地下鉄駅周辺ですが、日本の大都会を思わせる高層ビルが建ち並んでいました。さすが、人口700万人を超えるブラジル第2の大都会です。2014年のワールドカップ、2016年のオリンピックの開催地に決定し、最近景気も少しずつ上向いているとのことでした。

最初の訪問地は、リオで一番有名なコルコバードの丘です。ここに建つキリスト像は、リオのシンボルで、テレビでは何度か見たことがあります(右上写真)。像の高さは30m(台座を入れると38m)、横一文字に広げた両手の幅は28mだそうで、像が見えた瞬間、思わず、「でかい」と叫んでしまいました。この丘から、リオ全体を見渡すことができ(右下写真)、このキリスト像が、リオを守っているかのようでした。この日は、やや薄曇りで、リオの街並がくっきりと見ることができる状態ではなかったのですが、それでも、リオの街並みの高層ビル群、美しい海岸線など、その景色は雄大で繊細さも感じることができ、ずっと浸っていたい感じでした。



次の訪問地は、ポン・ジ・アスーカルです。小さな半島に突き出した奇岩です(左上写真)。半島の付け根から、このポン・ジ・アスーカルの頂上までは、ロープウエーを2つ乗り継いでいきます。左中写真は、第2ロープウエーに乗り、ポン・ジ・アスーカルへ向かうところですが、矢印のあたりで人間を見つけました。左下写真はそのあたりを拡大しました。考えただけでも怖くなりますが、この辺りでは、同様な岩肌を使ってロッククライミングを楽しむ人が結構いるそうです。

この後、かつてカーニバル会場として使われていたサン・クリストヴァン・パビリオンという広大な場所で、フェイラ・デ・サン・クリストヴァンと呼ばれるイベントへ行きました。これ

は、ブラジル北東部からリオへ出稼ぎに来た人たちが集まって行うイベントで、広い会場内には北東地方独特の調味料や食料品、土産物などがぎっしり並び、私の知らないブラジ

ル北東部のことを少し知ることができました(右写真)。

